

- ◆企画名 ピア・コミュニティ春合宿
 日程 平成 28年 3月 12日 (土) ～3月 13日 (日)
 場所 関西大学 飛鳥文化研究所・植田記念館
 参加者数 19名 (ピア・サポーター 8名、研修生 4名、学生支援室 TA4名、職員 3名)
 目的

- ①コミュニティの枠を超えて交流することで、サポーター同士の絆を深め、同じピア・サポーターであることを感じてもらい今後のコミュニティ間の連携を促進する。
 ②それぞれのコミュニティの良さや問題点などを共有し、それぞれのコミュニティの更なる発展の機会とする。
 ③ピア・サポート活動で役立つスキルを身につける。

内 容

(1日目)

- ・開会挨拶
- ・オリエンテーション (コミュニティ紹介、自己紹介&他者紹介、アイスブレイク)
- ・TA 企画ワーク「実りあるミーティングにするために」
- ・懇親会

(2日目)

- ・お目覚め体操
- ・運営本部ワーク「企画の参加者募集を見てもらうには」
- ・アンケート記入、閉会挨拶

効 果

- ・コミュニティの枠を超えた交流ということで、全員が互いに協力しながら活動でき、親睦を深めることができた。
- ・TA 企画ワークでは各コミュニティのミーティングの実際を知ることができ、それぞれのミーティングの良い点、問題点を共有できた場となった。
- ・運営本部ワークは広報という面に絞った内容であり、広報媒体の種類と特徴について理解を深め、次年度の広報をする際に役立つスキルを身につけることができた。

改 善 点

- ・参加人数が少なく、コミュニティの枠を超えた交流が難しかった。
→合宿に来てもらえるように、日頃から他コミュニティとの連携を深めておく。
- ・当初の予定より時間が押してしまう場面が何度かあった。
→リハーサルでワークの盛り上がり具合などを確認して時間設定をする。
- ・コミュニティ紹介で放映した PV は、完成したものを見せることができなかった。
→PV だけに限らず、合宿で使用する予定のものは早め早めの作成を意識する。
- ・アイスブレイクにしては少し時間が長いように感じた (アンケートの回答によるもの)。
→リラックスして活動でき、時間が長いと感じさせないように工夫する。

感 想

合宿への参加、企画に関わるのが初めてという人が何人もいるという状況であったが、何とか形になって良かった。広報についてのワークは今後のピア活動に生かせる内容であり、行ってよかったと思えるものであった。

アイスブレイクだけでなくワークに関しても、他の参加者と班になって活動するなかで団結感が強まり、和気あいあいと交流を深めることでピア・コミュニティとしての連帯意識が芽生えた時間であったと思う。

全体を通して雰囲気が高く、人数が増えていけばより充実した合宿になると思うので、日頃から他コミュニティとの関わりを持ち、多くの人に合宿に来てもらえるよう頑張る。